

佐世保市の食育推進における各団体の取組み状況等に関する調査票（平成25年度第2回食育推進会議）

◆現在の取組

団体名	目標 番号	取組み内容	問題点	行政または他の団体へ期待する取組み
佐世保市 歯科医師会	10	・各年代における各種歯科健診	・青年期、壮年期、高齢期における健診率の低さ。 ・寝たきり及び施設入所者の健診がなされていない。 特に高齢者、障害者の摂食機能のデータがない。	・市民への歯科健診の広報。 ・寝たきりや施設入所者の歯科健診の実施及びデータの取得。 ・摂食機能のデータの取得。
	9	・噛ミング30の推進について	・関心がある人々の割合よりも、実際に実行している人の割合を把握した方がよい。	・噛ミング30を市民への広報。
長崎県 栄養士会 佐世保支部	9	・歯によい料理によい料理の紹介 ・リーフレット配布 ・様々な食品の糖分量展示等	・島瀬公園という場所のため、通行中の方が多く長くは立ち止まってはくれない。	
	1	・栄養士会主催研修会を市民に公開（市民公開講座）	・案内の周知が不足しており、参加者が少ない。	
	4	・日本栄養士会ホームページにおいて「ライフステージ別食育」を展開中		
長崎県 公立高等学校・ 特別支援学校 校長会（佐世保 北中学校・高等 学校の例）	1	①食育講演会開催 県立大学シーボルト校 富永美穂子 先生による講演）25年度 ※関連して「食生活及び生活習慣に関する調査」の結果分析（生徒・職員への還元も）実施。 ②食生活および生活習慣に関する調査 ③ヘルシークッキングコンテスト等への応募 ④手作り弁当をもって幼稚園訪問実施（中2） ⑤調理実習の取組み 中学校→エコクッキング（残飯を出さない）の実施 ⑥県運動部部活指導者派遣事業トレーナー派遣 平成24年度 スポーツ栄養士 講演会 村元 淑子 先生	・継続した取組みをしたいが、予算や協力機関がない	・取組みに対する補助費や協力機関を行政に提供していただきたい。
	11	①「お魚料理教室（あじ、ハマチ）」（中2） →魚市場協会主催 ②郷土料理実習 皿うどん（中3） ヘルシーバーガー（高1） ③和食弁当 （ハマチの照り焼き、大根葉とじゃことピーマンの炒め物、卵料理）（高1）		

佐世保市の食育推進における各団体の取組み状況等に関する調査票（平成25年度第2回食育推進会議）

◆現在の取組

資料2

団体名	目標番号	取組み内容	問題点	行政または他の団体へ期待する取組み
佐世保市 保育会	1, 11	給食部会を定期的に開催し、成長期の乳幼児に対し、給食内容の充実を図るとともに、食育を推進することを目的とし、調査・研究及び研修を行い、全市内保育所が研鑽していく。 5/21 食育インストラクター 加藤 奈美氏講演 「未来へつなぐ食育のススメ」 ・食育の目的や現代の食、日本人に合った食事（発酵食品・行事食等） ・地域で取組む食育（小さな社会の形成）		
	1, 7, 9	7/17 長崎国際大学 宮原 恵子氏 講演 「子育て体験を通しての離乳食の進め方」 長崎国際大学 小島 菜実絵氏 講演 「食物アレルギーの基本と除去食」 各園の取組みを発表し研鑽する。	・4ヶ月健診で保健師さんから離乳食の進め方の指導も行われていると思うが、保護者の解釈が違うのかズレがあり、大切なそしゃく・えんげの時期に適切な食が形成されず、保育園の給食でつまづく乳幼児もいる。 ・食物分子の小さいものからどんどん進めたほうが良いと小島先生からご指導を受ける。	
	1, 6, 14	10/27 保育イベント「親子であそぼ！！」 佐世保駅前広場で市内親子へ食のアピールコーナー、相談窓口 ・給食で子どもに人気のメニュー展示・レシピ配布 ・はしの持ち方を学べるコーナーの設置 持ち方指導		
	1, 11	11/7 食育体験～味噌づくり～ 各園で取組める食育活動の一つとして提案		
	1, 7, 9	10/17 主任保育会の中で食育研修 新田保育園 上橋氏 「離乳食の進め方・食物アレルギー対応食」 乳幼児期には味覚や食嗜好の基本が培われ、将来の食習慣にも影響する。その大切な食事に携わる職員として、離乳食の基本を学び、保護者や地域へ伝えていく。また、今般増えているアレルギー児に対する対応食や誤食防止についても学ぶ。	・食物アレルギー児に対する食事の面では、対応食・提供方法で各園、神経をすり減らしているのが実情。 大量調理の中で、手のこんだ離乳食・アレルギー対応食を作りたいが、手が足りない。	

佐世保市の食育推進における各団体の取組み状況等に関する調査票（平成25年度第2回食育推進会議）

◆現在の取組

資料2

団体名	目標番号	取組み内容	問題点	行政または他の団体へ期待する取組み
ながさき西海農業組合	1	25年度は佐世保市内の8小学校、1幼稚園で延べ2800名を対象に食農教育を実施している。農産物の栽培、収穫、加工の体験を通して農作物の命を頂くことや、作り手の大変さ、安全安心へのこだわりを伝えることや、栽培体験することでの好き嫌いの解消で地産地費や国産農畜産物消費拡大や農業への理解につながればと考えている。 同時に、食農教育活動に取り組んだ小学校を対象に、取組みの内容や、取組みからの学びを壁新聞にまとめてもらい、「壁新聞コンクール」を実施している。	・JAとJAの青年部、女性部が実施しているが、栽培、収穫、加工までには相当の期間を要することから、青年部、女性部への負担が大きい。また、経費もかかる。	・「壁新聞コンクール」等に要する経費の一部助成があればと思う。予算があれば、企画内容も充実できる。 (参考)壁新聞コンクール24年度実績約700,000円
	3	・学校給食青果物地産地消関係協議会において、地元農産物の供給を行っている。	・周年を通して、同一品目を安定供給することが難しい。 ・スポット的な販売となり、対応が煩雑になる。 ・規格等により供給できない場合もある。 ・商品・時期によって、価格が折り合わない場合がある。	・原体供給の他、粉末等の加工や一次加工した商品も原料にしてほしい。6次化への取組みが加速し、長期的に供給が可能となるため、供給する品目の拡大が期待できる。
	11	直営店舗として、させぼ南部地区に2店舗を運営し、地元農畜産物の地産地消の拡大と共に地域の発展に取り組んでいる。 今では、地元農畜産物を安定供給できる場所として地域住民へ定着し、また地元組合員のコミュニティーの場所としても活躍している。	・食育を推進する活動・取組を行っていない。	・農商工が連携した地域イベント等を積極的(定期的)に実施し、地元農畜産物をPRできる支援をしてほしい。 ・観光、体験が出来るための店づくりの支援。 ・集客に繋がるための店舗のPR。
佐世保市水産振興協議会	6	長崎県北水産課による、小佐々、鹿町地区中学校での「魚のさばき方教室」の開催(九十九島漁協)	・指導者に、漁業士、女性部漁協職員で行っているが、学校の先生が、年2回は、学習として行い地元水産物の普及に努めていただければ！	・県の予算の中で行っているが、佐世保市もお願いしたい。
公募(加瀬川聡子)	9	・食事の一口めに、みんなで30回噛んで食べるように習慣づけるようにする。	・食事の時間が長くとれるように時間に余裕を持たせる。	・保育園でもよく噛んで食べるようにスローフードを推進してもらいたい。
	12	・農家で野菜のなり方や収穫をさせてもらうお米のつくり方を学びプランターでお米を育てた→お米を炊く事ができるようになった。	・お米の脱穀、精米が大変だった。	・農業体験ができる機会が増えるといいと思う。
	14	・正しいはしの持ち方を練習させる。大豆やいりこなどの食材を使って、楽しみながら行う。		・基本的には家庭で、正しく使えるように練習しているが、保育所でもゲームなどを行って練習をしてもらえたら助かります。

